

令和3年度 武蔵野市立第四小学校 学校評価報告書

【評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である】

校長名 榛原 紀子

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
たくましい子 の育成	○運動習慣の定着や体力向上を目指し、体育科の授業改善に取り組む。	○昨年度までの研究・開発を生かし、児童が運動に親しみ、運動能力を向上させることのできる運動(遊び)を実践した。児童の運動能力の向上を図ることができ、子供の体力向上推進優秀校として表彰を受けた。	A	○次年度以降も継続して行うとともに、市講師等を活用した体育学習の充実を図り、児童の運動の習慣化を図る。	○体力向上推進優秀校とても素晴らしいです。ありがとうございます。今後ともよろしく願っています。 ○「体力向上推進優秀校」としての評価をいただいたことは、今後、児童の運動の習慣化を図る上でも、体育学習への良い結果だったと思う。 ○体育の授業中、冬も半そで半ズボンの子供もいて、楽しそうに体を動かしていますね。先生方もよく工夫してくださっています。
	○休み時間を30分間にし、校庭に出て遊べる時間を確保する。	○今年度も継続的に外遊びの時間を設けることで運動時間の確保につながった。	A	○外遊びとともに体育的活動の意図的な実施をする。	○体力向上推進優秀校として表彰されたとのこと、おめでとうございます。コロナ禍の中、体を動かす機会が少ない折、校庭で先生方と一緒に運動している児童の姿を見るのは素晴らしいことです。
	○児童が主体的・対話的に問題を解決する場面を設け、深い学びを通して意欲や態度を養う。	○コロナ禍においても、今できることを考え、学習者用コンピュータ等を活用しながら主体的・対話的で深い学びの実現を図ることができた。	B	○主体的・対話的で深い学びについて学年の発達段階に応じた実践を行うとともに、教員間で共有する。	○嬉しそうに校庭に飛び出す姿は、小学生らしい。子供の元気な声が聞こえてきます。地域の活力になります。 ○児童の問題解決の場面は、多方面にわたり、深い学びも発達段階を踏まえた上での日々の教員の努力によるものと思う。 ○学習者用コンピュータを学校行事に活用し配信できるとよいと思います。来校が制限されていればこそ、この状況下でどうしたら家庭・地域に学校の様子が伝えられるかを重視していただきたく存じます。
	○自分の身の危険を予測し、回避する能力や他者を守る能力を身に付けられるよう安全教育を推進する。	○避難訓練は密になることを回避して実施した。各学級では、丁寧に安全に対する指導を行い、安全に対する意識を高めることができた。	A	○避難訓練については、事前・事後の指導も大切にし、安全教育に努める。	○校内に潜む事故危険度が最も高いのは、「プールサイドの転倒」と「階段での衝突」であるとの新聞記事を見ました。事件事故防止策の一助として、企業でも採用されているハインリッヒの法則を活用した小学校用「ヒヤリハットプラン」を考えてはどうでしょうか。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○児童の体力向上については、これまでの取組を生かし、さらなる工夫改善を図りながら取り組んでいく。体育科の授業を充実させるとともに、体育的な活動を意図的に実施し、外遊びや運動の習慣化を図っていく。</p> <p>○校内の「ヒヤリハット」の実態を洗い出し、児童自身も安全を意識して生活することができるように、日常的な声掛けを行っていく。</p>					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
思いやりがある子 の育成	○命を大切に、あらゆる偏見や差別をなくす人権教育を推進する。	○命を大切にしていると答えた児童は、どの学年も90%を超えている。差別に対する意識については、学級指導等、繰り返し行い、意識付けることができた。	B	○「命を大切にする」等の項目の上昇をさらに目指すために、引き続き道徳教育の推進を学校の教育活動の柱として位置付ける。	○生き物の世話をする機会は、子供時代には大切だと感じます。ウサギたちもよいケアで長生きしてくれていますね。 ○「人の気持ちを大切にすること」は、今後の人生においても大きな意味をもちます。ぜひ多様性を理解できるように働き掛けてください。家庭でもフォローします。
	○多様な他者と望ましい人間関係を築けるよう多様性の理解推進と人間性の涵養を目指す。	○児童アンケートの「いじめをしない」「人の気持ちを大切にしている」に関する項目の評価が、昨年度に比べ低くなった。コロナ禍において、他者と関わる機会や学習が大きく制限されることが要因の一つとして考えられる。	C	○本校の教育目標の重点目標である「思いやりのある子」の育成は今後も継続する。児童相互が関りながら学習を進めることができるように、授業の内容・方法を工夫する。さらに、異学年交流を通して、児童自身が多様性を理解できるようにし、望ましい人間関係の構築を目指す。	○コロナ禍により、望ましい人間関係も大きく制限されることになるが、できる限り異年齢の交流を多くして、多様性の理解を深めてほしい。 ○私の持論ではありますが、「思いやりがある子」の育成は、家庭教育が大きな比重を占めていると感じています。各家庭は、学校と一体となり人間性を育ていく必要があるのではないのでしょうか。 ○来年度は、人権擁護委員の話を授業に取り入れてはいかがでしょうか。他には、例えば青少協で保護者向けに人権擁護委員の講演会をしていただくとか。ただし、コロナ禍を考えるとズーム配信も考えられるかと思います。
	○ルールやマナー、社会規範などを身に付け、人としてより良く生きるための道徳教育及び生活指導を充実させる。	○学校内での挨拶の習慣はついてきていて、児童アンケートでも低学年 90% 中学年 81%、高学年 89% ができていると答えている。保護者、地域アンケートの結果は 50% 以下と低い値となっていて、意識の差が大きく表れている。	C	○学校の教育活動の柱として「生活指導」を位置付け、挨拶や清掃活動等に力を入れていく。特に挨拶については、挨拶をすることのよさと共に、相手に伝える、伝わることを意識して行えるように指導を続ける。	
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○学校・家庭・地域が目的の共有化を図り、一体となって子供たちのよりよい成長を支える。また、地域人材の活用や外部講師を招いての授業等を検討する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症等の校内、地域の実態を踏まえた上で、可能な限り異学年交流の場、取組を設定し、多様性の理解や望ましい人間関係の構築を図っていく。</p>				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
よく考える子」の育成	○学習活動の質の向上を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を通してあらゆる学びの基盤となる資質・能力の習得を図る。	○算数等で基礎的・基本的な学習を丁寧に行った。基礎的な学力の向上は図れている。主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善は、今後も取り組んでいくべき課題である。	B	○各教科の基礎基本を定着させるための個別指導や段階的指導の充実を続ける。授業改善は、学習者用コンピュータの効果的な活用も含めて、全校で取り組んでいく。	○情報活用能力の育成、言語能力の育成をさらに推し進めてほしい。 ○だいし臨時号によれば、本を使用する学習よりICTによる授業の方が分かりやすいという結果が出ていますが、新聞報道では、紙の本と電子本を比較すると、記憶に残りやすいのは、紙の本が74%と多数を占めていた。ICT機器の時代ですが、本を使った学習も今までどおり大事にしていきたいです。 ○昨年度の文科省の調査によれば、「学校が楽しい」と答えた小学6年生の割合が50%を切ったと発表された。一方、当校の児童アンケートの回答では、本年も80～90%の肯定的評価が示されており、先生方のご努力の賜物と思っており、A評価に値すると信じています。 ○市教委で行われている「学校・家庭・地域の協働体制検討委員会」の内容がHPに乗っています。次回は5月です。このことを踏まえて、学校・家庭で内容を共存していただきたいと思います。地域は地域性があり、なかなか追いつけません。
	○校内の言語環境を整備し、言語活動の充実を図るとともに英語教育の充実と情報活用能力の育成を目指す。	○ALTとの打ち合わせを密にし、各担任が英語の授業を行うことができている。学校図書館図書サポーターと連携し、学習内容に関わる図書資料を用意することで、情報活用能力の育成に努めている。	B	○各教科等において適切な言語活動を行い、児童の言語能力を育成する。	○子供の置かれている家庭環境により感染予防措置が即生活状況の悪化につながる家庭もあることを見えました。また、家庭教育の差が子供の精神的不安につながっている例もあり、このコロナ禍でますます家庭ごとの格差が出てしまったように思います。こういったことに地域の教育力のようなものが必要になるのではないかと痛感しています。つまり、評価は、私たち地域の住民がどんなサポートができるかも問われている気がします。それは、市、都、国のシステムもしかりと思います。
	○総合的な学習の時間、プログラミング教育、武蔵野市民科の学習を計画的に実施する。	○セカンドスクール・プレセカンドスクールが実施できない中、地域に目を向けた学習を計画し、武蔵野市民科の取組を行った。地域とのつながりを大切に今後も見直しながら実施していく必要がある。	B	○今年度の実践を引き継ぐとともに、児童自身が問題意識をもって追求していく学習を計画していく。児童の身近な地域に目を向けさせることで、自分事の学習としていく。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○情報活用能力、言語能力の育成を図っていく。その際、アナログ、デジタルそれぞれのメリット、デメリットを児童自身が理解し、必要に応じて選択することができるようにする。図書資料も十分に活用していきたい。</p>					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
進んで働く子の育成	○児童の自主性や自治的能力を高める学校行事や学級活動等の特別活動を充実させ、奉仕活動が積極的にできる心情を育む。	○コロナ禍において安全面に十分に配慮しながら、可能な方法を考え、運動会や芸術祭、80周年記念行事といった行事を行うことができた。委員会活動も充実させることができ、行事への主体的な関わりを促すことができた。	B	○状況の変化にも柔軟に対応していくことができるように、計画段階からいくつかのパターンを検討し、準備を進めていく。また、児童がより主体的に行事に関わることができるように特別活動とも関連させて指導を行っていく。	○コロナ禍で様々な制限がある中でも、教職員の皆様が子供のことを第一に考え、働き掛けてくださったと感じています。子供たちも行事へ参加する意味を理解し、よい経験につながったと思います。 ○学校行事に対する取組は、児童の自主性が育ち、奉仕活動にも責任を果たす積極的な姿が立派である。 ○先生方は、様々な制約や感染不安などを抱えながら、芸術祭、作品の展示など様々な工夫をして見事に遂行なさっていたと思います。その中で感動するような出来事も多く垣間見ました。
	○日本の伝統や文化に関する教育を充実させ、児童が社会とのつながりを大切にしながら地域社会の一員としてよりよい地域づくりに積極的に参加できる資質や能力、市民性を育成する。	○地域での校外学習は、例年通りとはいかない中でも、発達段階に応じた活動を行うことができた。	B	地域コーディネーターとも連携して地域と協働した学習をさらに進めていく。	○地域とのつながりについては、興味をもって取り組んでいました。集団生活だからこそ学び取ることのできる内容を展開してくださったことに感謝しております。 ○学校訪問の楽しみの一つは、廊下に掲示されている児童の力作を拝見することです。(掲示方法も工夫されている。)昨秋行われた芸術祭は、圧巻でした。特に四小歴史館は素晴らしいの一言でした。一過性の展示ではなく、常設展示として学校関係者だけではなく、地域の方々等、多くの人々に開放し、四小の歴史を語り継ぐ歴史ルームとして残していただければよかったです。 ○地域コーディネーターともしっかりと連携されて一層の充実をお願いいたします。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○行事等は、実施内容、方法を十分に検討しながら、児童の自主性、自立性を育てていくことができるようにする。</p> <p>○本校の教育活動をできる限り地域に広く公開する。地域コーディネーターとも連携して、地域と共に児童の育成を図っていくことができるようにしていく。</p>				